税理士法人 TACHIBANA ニュースレター

STEPUP

№24

【発行】税理士法人 TACHIBANA
〒832-0824 福岡県柳川市三橋町藤吉525-1
TEL.0944-74-1915 FAX.0944-74-1004
tachibana-cpa@tkcnf.or.jp
http://tachibana-cpa.com

ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。クライアントの皆様にはすがすがしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年はスポーツ界では、ワールドベースボールクラシックの優勝、大谷選手のホームラン王、MVP、日本選手のヨーロッパサッカーリーグでの活躍、卓球、バドミントン選手の世界での活躍など枚挙にいとまがありません。一方で、科学技術活動を体系的に分析した文部科学省の科学技術・学術政策研究所の「科学技術指標」2023年版によると、注目度が最も高い「トップ1%論文」数では、日本は、スペイン、韓国に抜かれ世界12位と依然低迷が続いていると分析しています。経済活動を包括的に示すGDP（一定期間に国内で生産された財・サービスの付加価値の合計額）でも、IMF（国際通貨基金）によると、日本は、2023年にはドイツに抜かれ世界第4位に後退すると予測される状況で、一人当たりのGDPは1995年の3位から2023年には31位まで後退しています。もちろん世界との比較では為替レートの変動の影響を強く受けるためランキングそのものが正確に実態を写し出しているとは言えないかもしれませんが。1980年代、Japan as No1.と言われた時代からすると、隔世の感があります。

先日、私の母校（福岡県立伝習館高校）の創立200周年記念式典が催されました。記念講演は本校出身の佐賀大学海洋エネルギーセンター教授池上康之先生の海洋温度差発電の取り組みでした。海洋温度差発電とは、表面海水と深層海水の温度差を利用して、ガスを液体化、ガス化を繰り返し、ガスの圧力でタービンを回し発電するというものです。彼は、高校時代に海洋温度差発電の取り組みをテレビで見て、この研究に打ち込もうと決心したそうです。

現在、沖縄県久米島で、佐賀大学、株式会社商船三井などにより、商用化に向けた実証事業が行われています。ここに至るまでには、幾多の困難があったそうです。講演の中で、If you want to go fast,go alone.If you want to go far,go together.多くの世界の研究者と出会い、競争と協力によって、海洋温度差発電の実用化は困難だと言われたが、ここまでこられたと述べられていました。

世界で活躍しているスポーツ選手は新天地に飛び込んでいます。ノーベル賞を受賞された多くの日本人科学者も、世界に研究の場を求めて留学されていました。しかし、昨今は、世界最高峰の大学と言われるハーバード大学への留学生数では、日本は、中国、韓国に大きく水をあけられています。この原因はいくつかの要因が絡まっているでしょうが、世界での日本経済の長期低迷も影響しているように思います。現在の円安の状況では、ハーバード大学の留学費用は年間約1千万円以上が必要です。失われた30年と言われた経済低迷で、いつの間にか、経済では、日本は後進国になったのかもしれません。色々な分野で、日本が輝きを取り戻すためには経済力の支えが必要です。DX化（デジタル技術を活用して業務そのものや組織、企業文化・風土を変革し競争上の優位性を確立すること）を進め、一人当たりの労働生産性を高めることが、人口減少時代では、我々中小企業にも待ったなしで求められているように思います。そのためにも、国には中小企業へのDX化の教育・支援、失業者へのリカレント教育の充実といったインフラ整備を行って頂きたいものです。地政学的リスクが高まる中、日本が平和であり続けるためには、日本があらゆる分野で輝き続けることが必要なのではないでしょうか。若者たちが世界に羽ばたけるような社会に貢献できたらと思っています。今年も宜しくお願いします。

代表社員税理士 立花 洋介

寄稿

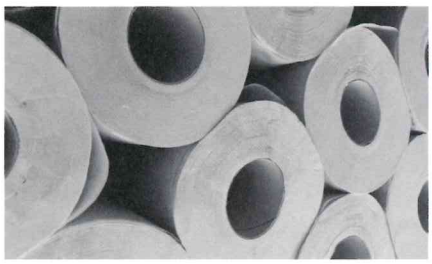
～古稀を迎え　来し方を振り返る～

文：社会福祉法人 理事長
立石 一弘

先頃、大学時代の学友である税理士法人TACHIBANAの社主 立花氏から、法人のニュースレターへの寄稿の話があり、その時はあまり深く考えもせずに引き受けたものの、いざ原稿締め切りの時が近づくにつけ、もとより、皆様へご披露できるほどのキャリアを踏んでいない身としては、読者諸氏へ果たして何をお伝えすればよいか悩み、迷い、今更ながら快諾したことへの後悔しきりの思いでありました。

そんな時、先日、母校九州大学経済学部の昭和48年入学者の古稀同窓会が開催され、久し振りに当時の学友（勿論立花氏も同席）と懐かしい話に花を咲かせているうちに、自身のこれまでの人生の来し方を振り返ること以外にこの悩み、後悔から脱することはできないとの心境に至り、以下拙い人生の歩みではありますが、その一端をつらつらと書き記してみたいと思います。

振り返って、私が社会へ巣立った昭和52年当時の景気は、それまで長期にわたって高度経済成長を続けてきた日本経済の転換点となった第一次石油危機（オイルショック）後の経済不況の最中であり、学生の就職戦線についてもその影響から、それまでの「売り手市場」から「買い手市場」へとその流れが変わりました。大学の先輩からは、これまではジーパンに下駄履きの格好で面接試験を受けてもよかったと聞かされたものです。（当時どう受け止めていたかは定かではないが、いささかそこまではあり得ないことフェイクであろう）



原油高騰による物資不足で「紙がなくなる」という噂が立ちトイレットペーパーを求めて行列ができるなどのパニックから消費者物価指数が上昇、経済不況の引き金となった。

私もこの流れに飲み込まれ（いや、自分の実力のなさをもっと自覚すべきであった）、複数の民間企業を受けるも悉く不合格、特に金融機関の集団面接では、自分のアピールポイントのなさを思い知らされるという惨憺たる結果でありました。こうして学友達が合格内定を勝ち取るのを見るにつけあせりを感じながらも、その後、最後の砦となった「長崎県庁」に何とか合格することができ、以来38年に及ぶ私の県庁生活がスタートしました。

その長い県庁生活のなかでも、とりわけ2度にわたり町役場、市役所への派遣を経験し、市町村合併や地域のテーマパークの再生、行革に絡む労使交渉といった仕事に携わりました。町役場への派遣の際は、時あたかも「平成の大合併」が全国で巻き起こるなか、助役という立場で幾度となく住民説明会、住民投票などを実施し、地域の分断の危機を乗り越えて新たな自治体の誕生を見届けることができました。一方で県復帰の際は、通常であれば特別職を「辞職」するとの扱いになるところ、合併ゆえにそれまで勤務した町の消滅により「失職」という扱いを受け、少々複雑な心境で県庁に戻ったことが思い出されます。

ハウステンボスのルーツとなった長崎オランダ村。休園を経て再開するが、2021年5月、施設の老朽化やコロナ禍による利用者減少により再び休園。

また、嘗てテーマパークの先駆けとして名を馳せた「オランダ村」の再生に取り組み、久しく停止していた施設のシンボルであった風車が再び回った姿を見た時の感激は今でも忘れられない思い出です。

2度目の派遣先である自治体では当時の「三位一体改革」の流れに呼応して自治体の行財政改革が強く叫ばれる中、派遣先の行革担当責任者として行政の合理化、スリム化に取り組むことになりました。当然ながら職員組合の抵抗は大きく、幾度となく徹夜での労使交渉を経験しました。

これら派遣先での仕事は、いずれもなかなか見通しの立たない中身でしたが、関係者との対話を重ねながら地道に妥協点を見出すという作業の連続であり、その渦中にあってはかなりしんどい思いもしましたが、様々な出会いや多くの知己を得ることができ、今思うにその後の人生の糧となる貴重な経験となりました。

県庁退職後は再就職として病院の事務部長などを経て、現在、障害者・児の施設を運営する社会福祉法人の理事長に就任しています。

福祉の仕事に関しては、38年に及ぶ県庁生活を通じてもその業務経験は皆無であることから、社会福祉法人運営の最終責任者としての理事長職に私でいいのかとの思いから、少なからず躊躇するところがありましたが、以前「組織というもの上の階層にいくほど専門性は不要となる。普遍的な知恵や情報を持ち込むことが期待される」との組織論的な話を耳にしたこともあり、ここは引き受けることに相成り、就任以来4年目を迎えています。

この福祉という世界に入り常に思い至るのが、福祉という業態は、活動の大部分を「人間」の労働力に頼る割合が多いという「労働集約型産業」の典型と言えますが、その福祉を担い、支える「福祉人材」の確保に日々腐心しており、今後を見据えても人材の確保はまさに最重要課題となっています。

あくまでマクロ的な数字ではありますが、令和4年版の「厚生労働白書」によると、社会保障の担い手である医療・福祉分野の就業者は891万人と約20年間で410万人増加し、全産業に占める医療・福祉の就業者の割合についても2002年段階で7.5%（約13人に1人）だったのが、2021年には13.3%まで増え、就業者の8人に1人が医療・福祉分野で働いています。

今後も就業者の増加が見込まれますが、20歳～64歳の現役人口は2025年以降更に減少し、今後20年間で約1400万人減少するとされており、一方で医療・福祉分野の就業者が2040年には1070万人必要となると見込まれるが、確保できるのは974万人にとどまる見込みであり、100万人規模の人材不足が生じるとの推計が明らかにされています。

今後不足する人材の対応については、高齢者や外国人等も含めた多様な人材の活用、業務の効率化や労働環境の改善としてICTやロボット等の導入、職員定着のための処遇の改善が考えられます。

とりわけ、現在AI（人工知能）によるヒトの仕事の代替が話題になっていますが、人と人が触れ合うケアを基本とする福祉の現場においては、AIが代替するにも自ずと限界があるものと思われます。現在、新規学卒者を中心に若い人たちの職業観として福祉の仕事は「きつい、汚い、（給料が）安い」とのイメージが強く、就職先として敬遠されがちであると言われていますが、福祉に身を置く者として「福祉」という仕事の価値が再認識される日が必ずや訪れるものと信じて止まない思いです。

業務効率化や労働環境の改善としてICTやロボットの導入が進んでいるが、人と人とが触れ合うケアを基本とする福祉の現場においてはAIによる代替に限界があり、福祉の仕事に対する価値観の再認識が求められる。

【プロフィール】

昭和29年（1954年）生 長崎県佐世保市出身 九州大学経済学部卒

長崎県庁に入庁 県民生活部長、議会事務局長、環境部長などを歴任 この間、旧西彼町（助役）、佐世保市（行財政改革推進局長）派遣。県庁退職後、日赤長崎原爆病院事務部長などを経て令和2年（2020年） 6月 社会福祉法人長崎慈光園理事長に就任 現在に至る。

NEW FACE

新たに加わったスタッフをご紹介。よろしくお願いいたします！

本山 真理子（令和5年8月入社）

8月に入所しました、本山です。大川市出身で高校生のころは自転車で柳川市に通学していました。今は娘2、夫1、犬1で大野城市で暮らしています。趣味がないので探し中です。おすすめがありましたら教えていただけると嬉しいです。

事務所スタッフ近況

泓原 順子（平成13年入社）

この夏、一生に一度は！と思っていた富士山に登ってきました。一歩ずつゆっくりと登り無事に登頂することが出来ました。天気にも恵まれ、ご来光も拝むことができ最高の経験でした。登るのは辛かったけど、登り初めから山小屋滞在、頂上の景色やご来光、下山の時の影富士まで、全てが最高でした。日本一の山を登り切った2023年夏。幸せな夏でした。

平田 千佳（令和元年入社）

最近巷で人気の「ちいかわ」にハマっています。キャラクターの可愛さはもちろん、いつも一所懸命な姿に元気をもらえます。友情を感じる感動的なシーンや、思わず涙が出そうになるシーンもあったり、毎回ほっこりした気持ちになります。ダークな一面があるところも魅力の一つだと思います。見たことない方はご覧になってみてください。

堤 泰作（平成21年入社）

ようやくなのか、とうとうなのか、還暦を迎えました。ふり返ってみると身体は成長（老化）したけれど、人間的には若いころから成長していないような気がします。今後は老人力アップしながら、人間的に成長できたらと思います（今までできなかったので、ムリとは思いますが）。

徳渕 理彦（令和3年入社）

佐賀事務所の徳渕です。11月に第一子となる女の子が産まれてきてくれました。慣れない育児で悪戦苦闘している新米パパです。日々成長している我が子をみて、私自身も頑張らないといけないと思っています。これから立派なイクメンになれるように奮闘していきます！

EDITOR'S NOTE
編集後記

健康の為に始めた散歩ですが、ポイントにつられてスマホの中に飲料メーカー、生命保険会社、その他専用のアプリが3個入っています。ひとたび歩きますと同時にアプリ5件のポイントが獲得できます。ただポイントを獲得するには、時間の制限と歩数のノルマがあります。このノルマ達成の為、遅い時間帯にも歩いたりしています。確かに体重は減りましたが、最近はポイントに歩かされているようで、本当に健康的なのか疑問が芽生えています。（そ）

今年は初夏にバレーボールネーションズリーグ、秋にはワールドカップで男子バレーは素晴らしい結果でした。対ブラジル戦では30年ぶりの勝利、パリオリンピック出場権を取得したセルビア戦では感動して涙してしまいました。強くなった龍神ジャパン。来年のパリオリンピックでメダルも夢ではないと信じ応援したいと思います。（芝）

先日初めて子どもと二人で飛行機に乗る機会がありました。飛行機の中で子どもが泣かないかハラハラドキドキしながら機内へ行くとCAさんが子どもに笑顔で声を掛けてくれたり、ぐずりそうになっているとぬり絵を持ってきてくれたりと、気の利くCAさんのおかげでなんとか大泣きせずに乗れました。不安な時に人の優しさが身に染みた日でした。（内）

私の好きな季節は秋なのですが、今年は暑い日が長引き、秋を感じる事があまりないまま冬が来てしまいました。秋に着るつもりだった洋服がタンスから出ることもなく、また来年まで寂しく出番待ちです。（茉）

▶ 表紙写真

中山熊野神社にある樹齢約300年余りの「中山大藤」は、県の天然記念物にも指定されている名木で、地元保存会や関係者の方々の手によって大切に育てられています。開花時期の4月中旬～下旬に神社と立花いこいの森公園で開催される「中山大藤まつり」は柳川の春の風物詩。今年も楽しみです。

年末年始の休業のお知らせ

誠に勝手ながら、下記の期間は年末年始休暇のため、休業とさせて頂きます。

令和5年12月29日（金）～令和6年1月4日（木）

皆様には大変ご不便をおかけ致しますが、何卒ご了承頂きますよう、お願い申し上げます。
なお、年始は、1月5日午前9時より、平常通り業務を開始いたします。